

【三人制審判】基本の動き

1、ポジション(あくまで基本形であり、場合によっては変形もある)

①無走者・走者三塁のとき

☐一塁塁審、三塁塁審ともに一・三塁の後方ファウルラインの外側に位置する。

②走者一塁、一・二塁、一・三塁、満塁(フォースの状態)のとき

☐一塁塁審は一塁後方ファウルラインの外側、三塁塁審は二・三塁間内野内に位置する。

③走者二塁、二・三塁のとき

☐一塁塁審は一・二塁間内野内、三塁塁審は三塁後方ファウルラインの外側に位置する。

* ツーアウトの場合は三塁塁審が二・三塁間内野内に位置し、一塁塁審は一塁後方ファウルラインの外側に位置する。(一塁審判がツーアウトでの打者走者を一塁でのフォースアウト判定に備えるため)

2、外野への打球の責任範囲及びプレイの判定

(外野左右の中間地点に飛んだ打球を追う場合については、両塁審が判断良くどちらかに任せて、行動する)

A.両方の塁審がファウルラインの外側に位置した場合

①中堅手より向かって右側の打球

☐一塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合三塁塁審は内野内に移動し、各塁のプレイに備える。球審は必要に応じ打者走者の一塁触塁を確認後必要なプレイに備える。

②中堅手より向かって左側の打球

☐三塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合一塁塁審は内野内に移動し、各塁のプレイに備える。球審は打者走者の一塁触塁を確認後必要なプレイに備える。

B.いずれかの塁審が内野内に位置した場合

B-1 一塁塁審が内野内に位置した場合

①右翼手より向かって右側の打球

☐球審が打球の責任を持つ(ファールかフェアの判定及びボールデットの判定)又必要に応じて打者走者の一塁触塁を確認後、本塁でのプレイに備える。(必要に応じタッグアップを見る)三塁塁審は内野内に移動し、各塁のプレイに備える。

②右翼手から中堅手までの打球

☐一塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合三塁塁審は内野内に移動して、二人制の動きになる。球審は打者走者の一塁触塁を確認後本塁でのプレイに備える。

③中堅手より向かって左側の打球

☐三塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合一塁塁審は必要に応じて各塁のプレイに備える。球審は必要に応じて打者走者の一塁触塁を確認後本塁でのプレイに備える。

B-2 三塁塁審が内野内に位置した場合

①中堅手より向かって右側の打球

☐一塁塁審が打球の責任を持ち、三塁塁審は内野内に移動して、二人制の動きになる。球審は打者走者の一塁触塁を確認後必要に応じ三塁又は本塁でのプレイに備える。

②中堅手から左翼手までの打球

☐三塁塁審が打球の責任を持ち、打球を追った場合、一塁塁審は内野内に移動して、二人制の動きになる。球審は必要に応じて打者走者の一塁触塁を確認後三塁又は本塁でのプレイに備える。

③左翼手から向かって左側の打球

☐球審が打球の責任を持つ(ファールかフェアの判定及びボールデットの判定)三塁塁審が打球を追った場合、一塁塁審は内野内に移動して、二人制の動きになる。球審は必要に応じて打者走者の一塁触塁を確認後三塁又は本塁でのプレイに備える。

3、ハーフスイングの判定

①フォースの状態にあるとき、左打者のハーフスイングの判定は、二・三塁間に位置している三塁塁審が行う。

②走者が二塁および二・三塁のときの右打者のハーフスイングの判定は、一・二塁間に位置している一塁塁審が行う。

4、トラブルボール

◆ 次のトラブルボールの場合、審判はいい角度をとりながらできるだけ近づいて判定する。

- ①右翼線または左翼線寄りの打球。
- ②外野手が前進して地面すれすれで捕る打球。
- ③外野手が背走するフェンス際の打球。
- ④野手が集まる打球。

5、塁審の重要な確認と判定(必要な責任範囲での)

- ◎各塁での判定
- ◎走者の触塁確認
- ◎スイングの判定(スイング、ノースイング)
- ◎打球、送球の行方
- ◎守備妨害、走塁妨害などの妨害確認
- ◎タッグアップの確認
- ◎外野手のキャッチ又はノーキャッチの判定
- ◎球審よりリクエストのあった、内野手のキャッチ又はノーキャッチの判定
- ◎その他